

平成22年度第3回成田市環境審議会会議録

1 開催日時

平成22年11月11日(木) 午前10時～午前11時

2 開催場所

成田市花崎町760番地
成田市役所6階中会議室

3 出席者

(委員)

橘昌孝会長、本橋敬之助副会長、森山茂委員、片岡孝治委員、谷口俊六委員、
長尾ミチ子委員、越川安夫委員、郡司正幹委員、加藤榮子委員、小川和也委員、
會津信子委員、小倉茂委員、中山茂委員

(成田市)

環境部 長瀧部長

環境計画課(事務局) 桑原課長、石井主幹、加藤副主査、新垣主事

クリーン推進課 保延課長、山田副主幹、金田主査

4 議題

- (1) ごみ分別区分の見直し及びごみ処理費用の住民負担のあり方について【諮問】
- (2) パブリックコメント実施結果について【報告】
- (3) 答申について
- (4) その他

5 議事(要旨)(○…委員、◎…会長、→…事務局の発言)

- (1) ごみ分別区分の見直し及びごみ処理費用の住民負担のあり方について【諮問】
市長が都合により欠席のため、環境部長から会長に諮問書が手渡された。

- (2) パブリックコメント実施結果について【報告】

ごみ分別区分の見直し(素案)に係るパブリックコメント実施結果について、事務局より説明を行い、以下の意見等が出された。

○ごみ分別区分変更案の表は細かすぎて、一般の人にはわかりにくいと思う。

○資料中の、平成29年度のごみ排出量推計値について、平成21年度の実績値を基に作り直せば、推計値は下がると思われる。また、これからはリデュース・リユースが重要であることから、ごみ処理費用の有料化は早急ではないか。

→ごみ排出量推計値の基となった、一般廃棄物処理基本計画は24年度、もしくは25年度に見直す予定である。また、有料化については、ごみ分別区分を見直したことによるごみ量の推移を見る中で、ごみ量が増加していく場合には、さらなるごみの減量化

- 策を検討していくこととしており、今回の諮問の中に有料化は含まれていない。
- パブリックコメントで意見を出したが、実施結果には意見提出者なしとなっていた。
 - 審議会委員の意見は、今までの会議で十分聞いており、この案に反映されている。パブリックコメントは、審議会に出られない一般の人のためにあるものだ。
- 委員からいただいたパブリックコメントは、パブリックコメントとしてではなく、これまで通り委員からの意見として、今後の参考にさせていただく。
- 資料の標題から、「ごみ処理費用の住民負担のあり方について」を抜いたほうがいいのかではないか。
 - ◎市としては、ごみ分別区分を見直し、ごみ量の推移を見ていく中で検討していくこととしているので、このままでいいのではないか。

(3) 答申について

答申について、市の案に同意する答申内容とすることを確認した。

(4) その他

その他、以下の意見等が出された。

- ごみの発生抑制が一番大事であり、議論するべきではないか。
 - ◎ごみの発生抑制については、子どものころから教育していくことや、大人がきちんと手本を見せていくことが大切ではないか。ごみ問題によって、地球がどうなるかなど、広い視点に立ち教育していくことが必要である。
 - 中高年のマナーが悪いと思う。子どもは大人を見ているので、大人が決められたことをしっかりやっている姿を見せてやるのが効果的ではないか。
 - 白色トレイ等のごみになるものをなくすように、販売店に何か働きかけられることはないか。
 - 社会の動きを変えるのは一人ひとりの意識の高さであり、それがまだ足りないのではないか。国民の中でそういう声が大きくなり、行政や企業を動かすというのが理想ではないか。
 - 今の経済は市場原理主義なので、法律で規制するしかないと思う。世論として国に働きかけていくのがいいのではないか。
 - 販売する立場からすると、法律で規制を受けるのは厳しい。ヨーロッパではビンをリユースして販売しているが、日本で同じものを販売しても買ってもらえないと思う。そういう国民性なので、子どもの教育や大人が手本となることが必要ではないか。
 - 現時点で有料化を考えていないのだから、諮問書から「ごみ処理費用の住民負担のあり方」という文言をはずして欲しい。
- 今回、有料化については見送ったが、ごみ処理費用の住民負担のあり方について、本審議会の中で議論をしていただいたので、できれば残していただきたい。

◎検討はしてきたので、残してもいいのではないか。

6 傍聴

傍聴者 1 名。

7 次回開催日時（予定）

平成 23 年 1 月～2 月頃。